

文化・経済フォーラム滋賀

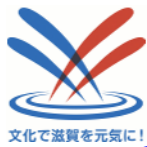
文化deけいざい 経済deぶんか ニュース&にゅーす第1号(2011年4月6日)

発行 滋賀県文化振興事業団内事務局(大津市京町3丁目4-22 旧滋賀会館内)

077(522)8369 fax 077(522)9647

eメール bunka-keizai@shiga-bunshin.or.jp

事務局 岸野 洋



文化deけいざい 経済deぶんか
ニュース&にゅーす 第1号

ってしま

いました。お約束していた会員さま向け、

メールマガジンの発信、第1号です。千年に一度の、あの東日本大震災、先行きの見えな
い福島原発第1号...、正直なところ気持ちが萎えていました。何時までも、滅入っていて
はいけません。文化で滋賀を元気に！、もとより、文化で日本を元気に！でもありま
す。色んな角度でニュースを発信していきたいと思います。

設立総会から随分、日時が経

実はメルマガを思い立って、新聞の文化と経済の関る記事を収集していましたが、なん
やかんやあって、発信が遅れ、ネタまで古くなってしまいました。気持ちを切りかえ、桜
咲く4月からと仕切り直して探していましたら、3日付け京都新聞滋賀版に掲載の以下
の記事を見つけました。

大阪市内に事務局を持つ「美術館にアートを贈る会」(佐野吉彦理事長)が自分たちで集
めた寄付金で、成安造形大学准教授の洋画家・伊庭靖子さん=京都市在住=の油彩画3点
を購入、作品買い上げ予算の乏しい滋賀近代美術館に贈呈したという話です。どうして、
伊庭さんの作品かと言いますと、2007年に近美であった企画展で、伊庭さんが近美所
蔵の青磁をモチーフに作品を描いていたからだそうです。近美側も買い上げたかったのだ
ですが、予算がなくて、保留になっていて、「~贈る会」に寄贈を依頼していたそうです。一
般からの募金によって芸術作品を美術館に贈る活動をしている「~贈る会」は近美の意向
をくみとり、09年から寄付を募り、全国の89人から目標の100万円を集め、この2
日に贈呈式を行ったとの記事です。

今回のケース、寄付は滋賀県以外の方が多かったと思います。
文化芸術支援は県域を超えてです。県予算で購入できないのは
寂しいですが、文化・経済フォーラム滋賀でこうしたことがお
手伝い出来たらいいなあと思います。贈る会に感謝するととも
に自分たちで何ができるか、考えたいです。





次に会員さん情報です。お二人を紹介します。フォーラムの幹事でピアニストの南千勢子さんと、会員で元滋賀県立図書館長・梅澤幸平さんです。南さんは4月2日、大阪・池田市の逸翁美術館マグノリアホールであったサロンコンサートに出演されました。メンデルスゾーンの春の調べに始まり、ベートベンの月光、リストのハンガリー狂詩曲など、1時間にわたって演奏、鑑賞者を魅了しました。梅澤さんは京都新聞週1回の日曜コラム「よし笛」に寄稿が載っていました。見出しは<国民を励ます言葉の力>で、東日本大震災について、~今こそ、リーダーとしての、国民を慰撫するとともに励ます「言葉」が求められる~と、識見の高い文章でした。掲載日は4月3日付け19面です。事務局にコピーがあります。ご希望でしたらFAXでコピー原稿をお届けします。お申し出下さい。



以下はフォーラム発足以来の活動履歴です。どんなことがあったか、ご確認下さい。

滋賀・びわ湖ブランドネットワークの発起人会（3月30日・コラボしが）文化・経済フォーラム滋賀も発起人会の一員として、出席しました。31日付けの京都新聞、日経朝刊に記事が載っています。滋賀のイメージ向上へ産官学の始まりです。発起人会の代表はびわこビジターズビューローの高田会長です。県企画調整課が事務局を持ち、7月ごろ設立総会を目指しています。高田会長は文化・経済フォーラムとの連携も強調されていました。

びわ湖ホール<ラ・ホール・ジュルネ>推進委員会（3月10日・びわ湖ホール）今年2回目で、4月29、30日に開催です。フォーラムから木村至宏代表幹事が推進委員会の委員として参加されました。今年はウィーンのベートベンがテーマで、昨年以上に盛り上がりそうです。

3月12日・びわ湖ホールでありました<びわ湖・アート・フェスティバル>（同実行委員会主催・しが経文制作）の招待券を主催者のご好意で発送させていただきました。

とりあえず、第1回メルマガです。もう少し、内容を高めてとっております。情報などありましたら事務局メールアドレスへお寄せ下さい。次回は発足時の会員アンケートの集約結果をご報告したいと思います。（以上、文責・岸野）